



県営水道の発足と普及

- 江戸時代末期から明治時代初期にかけて外国との交易が活発になったことなどから、コレラ・チフスなどの伝染病が流行したため、全国各地で水道布設の要望が高まりました。
- こうした中で明治20年(1887年)、横浜市において我が国初となる近代水道が誕生しました。
- 昭和初期における千葉県では、江戸川から千葉市にかけての東京湾岸地域において、河川水や地下水の水質が悪く、伝染病が続出したため、水道事業の必要性が高まっていました。このような実情から、当時の岡田文秀知事は、広域的観点に立って県営上水道計画を策定し、その後、県議会で可決され、昭和9年に水道布設認可を受け、昭和11年に給水を開始しました。
- 現在は、千葉県北西部の11市にわたり約300万人のお客様に水道水を供給しています。(給水人口：全国第3位)

事業の推移

【給水開始時】(昭和11年)

- ・ 給水区域：1市12町村
千葉市、幕張町及び検見川町(以上現千葉市)、市川町、八幡町、中山町、行徳町及び南行徳村(以上現市川市)、浦安町(現浦安市)、船橋町及び葛飾町(以上現船橋市)、松戸町(現松戸市)、津田沼町(現習志野市)
- ・ 給水人口：2万人
- ・ 1日最大給水量：1万800m³



【現在】(平成28年度末)

- ・ 給水区域：11市
市川市、鎌ヶ谷市及び浦安市の全域、千葉市、船橋市、松戸市、習志野市、市原市、成田市、印西市及び白井市の一部
- ・ 給水人口：301万人
- ・ 1日最大給水量：93万9,574m³(平成29年2月26日)



千葉県水道局
マスコットキャラクター
ボタリちゃん

日本における近代水道の発足と県営水道のあゆみ

明治	昭和	平成
16年	3年	3年
20年	5年	5年
22年	6年	6年
25年	7年	7年
28年	8年	8年
29年	9年	9年
30年	10年	10年
31年	11年	11年
32年	12年	12年
33年	13年	13年
34年	14年	14年
35年	15年	15年
36年	16年	16年
37年	17年	17年
38年	18年	18年
39年	19年	19年
40年	20年	20年
41年	21年	21年
42年	22年	22年
43年	23年	23年
44年	24年	24年
45年	25年	25年
46年	26年	26年
47年	27年	27年
48年	28年	28年
49年	29年	29年
50年	30年	30年
51年	31年	31年
52年	32年	32年
53年	33年	33年
54年	34年	34年
55年	35年	35年
56年	36年	36年
57年	37年	37年
58年	38年	38年
59年	39年	39年
60年	40年	40年
61年	41年	41年
62年	42年	42年
63年	43年	43年
64年	44年	44年
65年	45年	45年
66年	46年	46年
67年	47年	47年
68年	48年	48年
69年	49年	49年
70年	50年	50年
71年	51年	51年
72年	52年	52年
73年	53年	53年
74年	54年	54年
75年	55年	55年
76年	56年	56年
77年	57年	57年
78年	58年	58年
79年	59年	59年
80年	60年	60年
81年	61年	61年
82年	62年	62年
83年	63年	63年
84年	64年	64年
85年	65年	65年
86年	66年	66年
87年	67年	67年
88年	68年	68年
89年	69年	69年
90年	70年	70年
91年	71年	71年
92年	72年	72年
93年	73年	73年
94年	74年	74年
95年	75年	75年
96年	76年	76年
97年	77年	77年
98年	78年	78年
99年	79年	79年
100年	80年	80年

16年 横浜市中区が横浜市の水道調査を実施

20年 函館、長崎、大阪、東京など港湾都市を中心に水道管を布設

22年 横浜市で我が国はじめてとなる近代水道の発足

25年 イギリス人が横浜市の水道調査を実施

28年 熊本地震発生(応急復旧隊派遣)、給水開始80周年、給水人口300万人突破

29年 栗山配水塔及び千葉分場1号配水池が登録有形文化財に登録

30年 東日本大震災による断水水が発生(17万8千戸)

31年 千葉分場1号配水池が土木遺産に認定

32年 ちは野菊の里浄水場通水開始

33年 新潟県中越沖地震発生(応急給水隊・応急復旧隊派遣)、千葉高架水塔が登録有形文化財に登録

34年 栗山配水塔が土木遺産に認定

35年 新潟県中越沖地震発生(応急給水隊・応急復旧隊派遣)

36年 千葉高架水塔が土木遺産に認定

37年 東京メトロ有明線開通

38年 阪神・淡路大震災発生(応急給水隊・応急復旧隊派遣)

39年 創設変更事業開始「ちば21新水道計画」

40年 福増浄水場通水開始

41年 1日最大給水量100万立方メートルを記録

42年 東京メトロ有明線開通

43年 4 拡・統合創設事業開始(北総地区の統合)

44年 柏井浄水場東側施設通水開始(オゾンと粒状活性炭を併用した高度浄水処理 ※全国初)

45年 北総地区創設事業開始(成田ニュータウン・千葉ニュータウン)

46年 第4次拡張事業開始(市原市の一部)

47年 柏井浄水場西側施設通水開始、給水人口100万人突破

48年 第3次拡張事業開始(松戸市及び市原市の一部、鎌ヶ谷市)

49年 第2次拡張事業開始(千葉市、船橋市、市川市及び市原市の一部)

50年 栗山浄水場通水開始

51年 第1次拡張事業開始(市原市及び千葉市の一部)

52年 公営企業として千葉県水道局を設置

53年 江戸川水源工場(ちくヶ崎浄水場)通水開始(平成19年廃止)

54年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

55年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

56年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

57年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

58年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

59年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

60年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

61年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

62年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

63年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

64年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

65年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

66年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

67年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

68年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

69年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

70年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

71年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

72年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

73年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

74年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

75年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

76年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

77年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

78年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

79年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

80年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

81年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

82年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

83年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

84年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

85年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

86年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

87年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

88年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

89年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

90年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

91年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

92年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

93年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

94年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

95年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

96年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

97年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

98年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

99年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始

100年 千葉水源工場(現千葉分場)給水開始



※本表では、現在の地名を表記しています。



昭和初期に建設された
千葉水源工場(現千葉分場)
の資料



昭和初期における水道管埋設工事
の様子(松戸市)